

ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

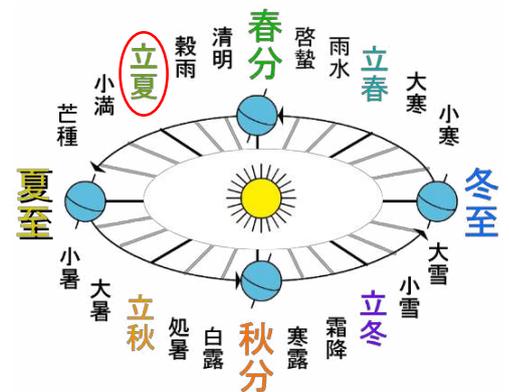
5月中旬の夜9時頃の星空を見ましょう。《春の大三角》が南の空高く昇り、夜空には春の星座が勢ぞろい。しかも、全天で88個ある星座のうち、大きさが1位・2位・3位の、〈大きな星座ベスト3〉が見られます。第1位は、南の空低く東西へ長々と延びる「うみへび座」。第2位は、「うみへび座」のすぐ上に横たわる「おとめ座」。そして、第3位は、北の空高く昇った「おおぐま座」です。特に、最大の「うみへび座」は、この季節、全体像を見る絶好のチャンスです。うみへびの頭は「かに座」のすぐ南にあり、そこから「おとめ座」の下まで、星が点々と東へ続く長大な星座です。どのくらい大きいかというと、うみへびの頭の先が地平線上に姿を見せてから、しっぽの先が昇りきるまで、6時間もかかります。そして、「うみへび座」で最も明るい星は、うみへびの心臓に輝く、赤っぽい2等星の「アルファルド」。また、うみへびの頭は、星座絵で描かれるのは1つですが、神話では、「ヒドラ」と呼ばれる怪物で、9つの頭を持っています。



図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ 二十四節気・5月5日は《立夏》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。5月上旬の節気は《立夏》です。毎年5月5日頃にあたり、《立夏》とは「夏の始まり」を表します。「立」は、中国語で「始まる」という意味があり、春が盛りを過ぎて、なんとなく夏の気配がし始める頃、それが《立夏》の時期です。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

★ 5月は水星を探査チャンスです！

今年の5月は、水星の見かけの位置が太陽から大きく離れるため、日の入り直後の西の低い空で、水星を見つけやすくなります。特に14日は、細い月から右下に辿ると探しやすい、また17日は、見かけの位置が太陽から最も大きく離れ、水星を観察できる、今年いちばんのチャンスとなります。ぜひ観察してみましょう。

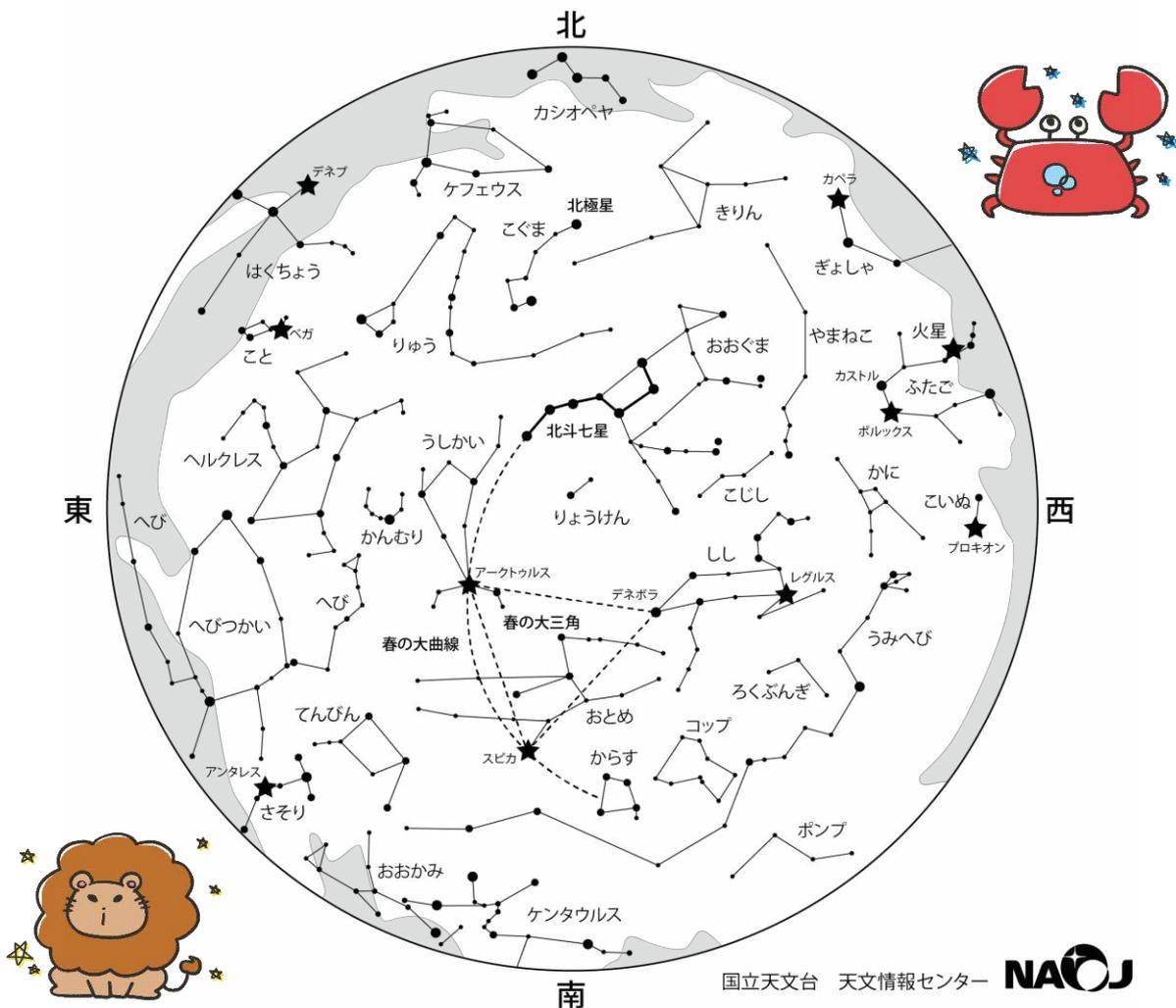


★ 5月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 5/6(木)、7(金)、10(月)、11(火)、17(月)、19(水)、24(月)、31(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

5月上旬午後9時頃の星空



★ 5月上旬の主な天文現象

4日(火) ● <small>かげん</small> 下弦 <small>つき</small> 月と土星が接近	12日(水) ● <small>しんげつ</small> 新月
5日(水) 月と木星が接近	13日(木) <small>きんせい</small> 月と金星が接近
<small>りっか</small> 立夏 (太陽黄経45度)	14日(金) <small>すいせい</small> 月と水星が接近
6日(木) <small>みずがめ座</small> n 流星群が極大	

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 5/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 5月12日(水) [見やすさ △]	3:46 北北西 ~	3:51 東北東
◇ 5月14日(金) [見やすさ ◎]	3:47 北西 ~	3:54 東南東
◇ 5月14日(金) [見やすさ ◎]	20:28 南西 ~	20:33 北東
◇ 5月15日(土) [見やすさ ○]	3:00 北北西 ~	3:06 東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。